

## 【診療科のご紹介】

当院腎臓内科は、蛋白尿・血尿から透析と腎移植まで、腎疾患の全ての病期を対象としています。特に県内随一のベッド数（103床）の透析センターがあり、血液透析の診療にあたっています。日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の指導医・専門医、小児科学会専門医を含め、現在常勤8名のスタッフで構成されています。そして日本内科学会、日本透析医学会、日本腎臓学会の認定施設となっており、各専門医資格の取得が出来ます。泌尿器科、循環器科、消化器科、放射線科など院内の各診療科との連携のもと、総合的な治療を行っています。

## 【プログラム年数】

1～3年

## 【プログラム概要】

教育プログラムは、腎臓病の総合的な理解と、疾患を経験する事を目標とします。学会発表を含め最終的には専門医資格の取得を目標としていただきます。当院は日本腎臓学会および日本透析医学会の認定の研修施設であり、他の条件を満たしていれば、3年間の臨床研修カリキュラムを修了すれば、腎臓専門医および透析専門医受験のための専門研修歴を得ることになります。また1年間の臨床研修の場合には、各専門医取得に必要な基礎的な講義による知識の取得と、申請に必要な症例を経験していただきます。なお研修期間中は、放射線科指導医による、単純X線・CT・MRIの読影指導があり、少なくとも1年終了時には驚くほどの読影力が身に付きます。また希望で超音波の技術の取得も可能です。定期的なカンファレンスとして、週1回放射線科や泌尿器科との合同でのブラッドアクセス症例検討会、また週1回内科抄読会と腎内科医師からレクチャーが行われます。また入院診療はチーム医療を行いますので、一人で悩む必要はありません。

## 【一年目】

入院患者5-15名の主治医となり指導医のもとで検査、治療計画を立て診療方法を習得します。また指導医の指導のもと、主に腎疾患の外来診療、慢性維持透析外来診療、維持管理について学びます。また急性血液浄化療法、腎障害、腎不全、電解質異常などのコンサルテーションに対応する診療能力を身につけます。

[到達目標]腎炎、ネフローゼ症候群から腎不全まで（CKD Stage1～5D）の原発性腎疾患のみならず、高血圧、糖尿病、膠原病などからの二次的な腎疾患の治療管理を学びます。また腎疾患の診断に重要な腎生検の技術およ

び病理所見の診断能力を身につけます。透析については血液透析のみでなく、腹膜透析の外来管理および合併症の治療を学びます。腎不全患者さんの手術、特に内シャント作成術、腹膜透析カテーテル挿入術、インターベンションなどを経験します。血液浄化療法は維持透析のみでなく、急性腎不全などの急性疾患に対する血液浄化療法の施行、管理についても学びます。また血漿交換、血液吸着などすべての血液浄化療法に関する知識および医用工学に関する技術を習得します。

## 【二年目】

基本的には一年目と同様ですが、更に正確性、習熟度を高めます。テーマを選び臨床研究に着手していただきます。

### [到達目標]

項目は一年目の目標に準じますが、さらに自ら判断できる能力を高めます。血液浄化療法は、導入時の処方とその後の維持透析の処方ができることを目指します。

## 【三年目】

全ての項目が到達目標に達するようにします。可能であれば、臨床研究の成果を学会発表します。（日本腎臓学会、日本透析医学会、日本腹膜透析研究会、国際腎臓学会、アメリカ腎臓学会、ERA-EDTAなどで発表を行います。）臨床論文を作成し、国内紙あるいは国際誌に投稿します。3年間の研修カリキュラムを満たして修了すれば、腎臓専門医および透析専門医受験のための専門研修歴を得ることができます。研修歴を満たした時点で他の条件を満たしている場合には、それぞれの学会の専門医試験を受けていただきます。